兵庫県立
芸術文化センター

谷崎潤一郎生誕 140 年

文豪・谷崎潤一郎の物語世界

関東大震災を機に阪神間へ移り住んだ
文豪・谷崎潤一郎が発見した『関西』の
豊饒なる芸能


木村伊兵衛 撮影









第 1 部

鼎談「**文豪・谷崎潤一郎の＜物語世界＞**」
朝井まかて（作家）
高尾具成（毎日新聞社 編集局専門記者）
河内厚郎（兵庫県立芸術文化センター 特別参与）

第 2 部

谷崎が愛した上方古典文化の競演
善竹忠亮、茂山千三郎（狂言）…小舞『細雪』ほか
片岡リサ（箏・地歌）…『残月』ほか
桂米團治（落語）…「演目は当日のお楽しみ」

2027 **2/13**（土）2:00PM 開演（1:30PM 開場）

3,500 円（全席指定 / 税込）

兵庫県立芸術文化センター 神戸女学院小ホール

〒663-8204　兵庫県西宮市高松町 2-22　阪急西宮北口駅南改札口スグ /JR 西宮駅より徒歩 15 分（阪急バス 7 分）

※車いす席はお電話のみ販売しております。　※未就学児童のご入場はご遠慮ください。
※やむを得ない事情により、出演者・演目等が変更となる場合があります。
あらかじめご了承ください。

芸術文化センター会員 先行予約受付開始	一般発売
11/21（土）	11/22（日）

●芸術文化センターチケットオフィス
☎0798-68-0255（10：00AM～5：00PM 月曜休※祝日の場合は翌日）
●インターネット予約　https://www.gcenter-hyogo.jp
●芸術文化センター 2 階 総合カウンター　※窓口での販売は 11/23（月・祝）より（残席がある場合のみ）

主催：兵庫県、兵庫県立芸術文化センター　企画：河内厚郎（兵庫県立芸術文化センター特別参与）　制作：河内厚郎事務所

谷崎潤一郎 生誕140年

文豪・谷崎潤一郎の物語世界

ノーベル文学賞にノミネートされた文豪・谷崎潤一郎は東京日本橋の出身ですが、関東大震災を機に関西へ移住し、阪神間で過ごした20余年に『卍』『蓼喰ふ虫』『春琴抄』など数々の名作をうみ、芦屋を舞台とする代表作『細雪』に結実します。それは近代標準語の人工的な性格に起因する文学上の行き詰まりから脱し、伝統に根ざした「物語」を再発見する道程でもありました。

阪神間に移り住んだ谷崎が発見し、愛した上方の文化を、お話と舞台でお楽しみいただきます。

第一部は、作家の朝井まかて氏、毎日新聞社の高尾具成専門記者、河内厚郎（兵庫県立芸術文化センター特別参与）が谷崎作品の魅力について語ります。

第二部では、関西に移り住み、上方の女性の文化や古典芸能を愛するようになった谷崎があらたに見出した芸能ジャンルから、地歌・箏曲、狂言、落語などをご鑑賞いただきます。

第一部鼎談出演者



●朝井（あさい） まかて（作家）

甲南女子大学文学部卒。2008年『実さえ花さえ』で作家デビュー。2013年『恋歌』で本屋が選ぶ時代小説大賞、2014年に同作で直木賞を受賞。ほか、同年『阿蘭陀西鶴』で織田作之助賞、2015年『すかたん』で大阪ほんま本大賞、2016年『眩』で中山義秀文学賞、2017年『福袋』で舟橋聖一文学賞、2018年『雲上雲下』で中央公論文芸賞、『悪玉伝』で司馬遼太郎賞、2019年に大阪文化賞。2020年『グッドバイ』で親鸞賞、2021年『類』で芸術選奨文部科学大臣賞と柴田錬三郎賞、2026年に『どら蔵』で吉川英治文学賞など、受賞多数。近著は『グロリアソサエテ』『豆は煮えたか』。



●高尾（たかお） 具成（ともなり）

（毎日新聞社・編集局専門記者）

1967年生まれ。1991年毎日新聞入社、原爆被爆者らの戦後課題、阪神・淡路大震災の被災者取材などを担当。2008年～12年にヨハネスブルク特派員。帰国後、東日本大震災被災地の三陸支局に勤務。災害の被災現場や紛争現場を取材。2008年度ボーン・上田記念国際記者賞。



●河内（かわうち） 厚郎（あつろう）

（兵庫県立芸術文化センター 特別参与）

1952年西宮生まれ。甲陽学院・一橋大学・舞台芸術学院（夜間）卒。文化プロデューサー。元『関西文学』編集長。NHKの番組審議員や文化庁芸術祭審査員等を歴任。現在、阪急文化財団理事、はびきの市民大学学長など。著書に『淀川ものがたり』、対談集に『関西弁探検』など。論文に「水と芸能とヒルコ」。読売賞・咲くやこの花賞などを受賞。時事通信の書評を担当。共著に『阪神間－「間」の文化快楽』などがある。

第二部出演者



●桂（かつら） 米團治（よねだんじ）（落語家）

1978年8月に父である桂米朝に入門し、桂小米朝を名乗る。同年10月、京都の「桂米朝落語研究会」にて初舞台を踏んで以来、落語の世界はもとより、テレビ、ラジオ、映画、舞台にと幅広く活躍を続けている。ミュージカルやクラシック音楽の分野に明るく、各地でオーケストラ等のコンサートに出演している。オペラと上方落語を合体させた「おぺらくご」という新分野も確立し話題を集めている。2008年、桂米團治の名跡を五代目として襲名。京都南座を皮切りに全国各地で77回の襲名披露公演を実施。2019年には還暦・噺家生活40周年記念「桂米團治独演会」を全国各地で実施した。上方落語の華やぎを大切に守りながら古典落語を探求、独自の世界を構築している。



●片岡（かたおか） リサ（箏曲家）

大阪音楽大学卒業、大阪大学大学院文学研究科博士前期課程修了（音楽学）。これまでに数々のコンクールで第1位を受賞。平成13年度文化庁芸術祭新人賞を洋楽邦楽問わず史上最年少で受賞。第21回出光音楽賞、平成22年度大阪文化祭賞、平成23年度咲くやこの花賞、平成30年度文化庁芸術祭優秀賞など受賞。多くのオーケストラとの協演、洋楽器とのアンサンブルや現代作品にも力を入れている。

現在、大阪音楽大学特任教授、同志社女子大学・兵庫教育大学非常勤講師。



●善竹（ぜんちく） 忠亮（ただあき）（狂言師）

狂言方大藏流。神戸市東灘区御影出身。1980年生まれ。祖父・忠一郎、父・忠重に師事し「以呂波」で初舞台。大阪能楽養成会修了、「釣狐」を披く。立命館大学大学院にて博士学位を取得。狂言界初の重要無形文化財各個指定（人間国宝）となった曾祖父・善竹彌五郎をはじめ、関西の狂言史や身体知を研究。古典舞台を勤める傍ら、学校公演や他ジャンルとの協働企画にも精力的に取り組む。



●茂山（しげやま） 千三郎（せんざぶろう）（狂言師）

狂言方大藏流。1964年生まれ。人間国宝の祖父三世・父四世茂山千作に師事し、3歳で初舞台。古典の研鑽を重ねる一方、海外50カ国での公演や他ジャンルとの協働、演出など多彩に展開。2015年より「三ノ会」を主宰し、21年に独立。父祖から受け継いだ技を糧に自らの狂言道を追求する。狂言の身体技法を基にした「和儀」の創始など、伝統芸能の枠を超えた発信を続ける。京都府文化功労賞など受賞多数。



https://www.gcenter-hyogo.jp

兵庫県立芸術文化センター

Hyogo Performing Arts Center

先行予約会員への
ご登録はこちら

便利なアクセス!!

大阪梅田からも神戸三宮からも
ホールまで15分
（阪急電車特急乗車の場合）

◎阪急 西宮北口駅 南改札口 スグ（連絡デッキで直結）
◎JR 西宮駅より徒歩15分（阪急バス7分）
※ご来場は、電車・バスなどの公共交通機関をご利用ください。

アクセス

